

# 不動公民館報

## 不動町の歴史(1)

不動公民館長 岸岡俊憲



昨年は不動町の地名について書きましたが、今年是不動町の歴史についてのべてみたいと思います。

一、奈良時代  
この時代、すでに不動地区

人口男子	1,699
女子	1,807
計	3,506
世帯数	1,371
平成13年12月1日現在	

発行者 館  
責任者 岸岡俊憲  
印刷 印刷株  
グランド印刷株

## 徳島市民憲章

わが徳島市は、美しい眉山の緑と清らかな吉野川の流に恵まれ、輝かしい伝統と限らない発展性をもった都市です。

わたしたちは、徳島市民であることに誇りと責任をもち、郷土の繁栄とおたがいの幸福をきずくために、みんなで力を合わせ、みんなでやるべき生活のよりどころとして、この憲章を定めます。

- 1 わたしたちは、まごころをもって助け合い、すべての人に親切にしましょう。
- 1 わたしたちは、健康で仕事に励み、明るく楽しい家庭をつくりましょう。
- 1 わたしたちは、協同生活のきまりを守り、平和で安全な社会をきずきましょう。
- 1 わたしたちは、自然や公共物をたいせつにし、美しい町づくりに努めましょう。
- 1 わたしたちは、豊かな教養を身につけ、すぐれた文化を創造しましょう。

昭和43年10月1日制定

この時代、すでに不動地区の阿波国名方郡新島庄券といふ古い文献の中に記録されています。当時東大寺は全国に寺は全国に庄園として四丁町歩を領しており、その中で新島庄は天平勝宝元年荒地を耕して

開かれ、同八年には総面積四二町八反一七歩、その内訳は壘田(新しく開いた田)が一町五反一五〇歩、陸田(畠で稲を育てる)が四一町三反一二歩、陸田のうち開拓されているものは二八町八反一七二歩、未開のものがあり、その地図まで残されています。(二反は約一〇〇アール、一町は約一〇〇アール)

当時の地図を見ますと、南北に大川があり、その中にいくつかの河川が走っています。南北の川は吉野川、鮎喰川、その中のいくつかの川は飯尾川、逆瀬川であるうとされ、この地方が現在の不動西町、北町、本町、東町一帯をさすものであるとされています。(人文地理一八〇五より)

天正一〇年南阿波から進軍してきた長宗我部元親の軍勢が勝瑞城を攻める途中不動地区を通った時、自家の守護神である八幡神社以外は全部焼きはらいまし



社は南新居八幡神社(不動本町)の掛額「八幡宮」をおろして、これを天佐自能和氣神社の額と、とりかえて難をのがれたといわれています。後にこの額は、八幡神社にかえされ、現在拝殿に掛額「八幡宮」として残っています。

三、室町時代  
新居城(出城)が造られていました。板西城主赤沢信濃守入道宗伝の筆頭家老で赤沢鹿之丞という人が、現在の不動西町四丁目八幡神社付近で館をかまえていました。

この赤沢鹿之丞は当時十二人いた家老の中で一番実力を持つた人で、本城である板西城といききしていたようです。その当時のものとして現在バス停留所(二橋)南の路傍に地上の高さ五八センチメートル、巾約三〇センチメートルの板碑があります。そのすぐ西の八幡神社は、赤沢氏が源氏として又武人として崇拜して造ったものだといわれています。

# 共に子育て

## 不 動 保 育 所

不動保育所では、子どもひとりひとりを大切に、人権を大切にすることを育てる保育を進めています。しかし、子育ては、保育所だけでなく、子育ては、保育所だけでなく、地域との連携が重要なこと、は言うまでもありません。今年度は子育てアンケートを行い、家庭での状況を知る手掛りとしてみました。

結果のひとつとして、生活時間で夜ふかし型が多い。もうひとつ、絵本について、(保育所は絵本の読み聞かせの大切さを訴え、貸し出し絵本に力を入れていきます。)毎回借りたり、家で読み聞かせをするには努力がいろいろ、毎日読んでいる、は7%位、時々読んでいる、らしいのは50%位でした。このような状況を、少しでも改善して頂けたらと。保育所の子育て教室

開催時には、それらに關した話を聞いてもらえるようにしています。

今年度第一回の教室は、中学校の森田先生を講師に、中学校から見た幼児期の家庭教育の大事さ、特に絵本の読み聞かせを中心とした話を頂けました。

第二回は、乾晴美さんを講師に、男女共同参画の世の中について、ご自身の子育てでの孤軍奮闘振りとその反省が話されました。特に子育て期の家庭の忙しさは大変です。ひとり背負ってしまわないで、家事育児ができるような環境にと。

地域との連携ですが、夏まつり、ふるさとカーニバル、他、様々な催しが、地域には地域の方々のご尽力で根づいています。保育所から子ども達はもちろん、保護者の方々に、一人年一回に参加してもらうように努

めていきます。地域を知り、交流し、今後もよりよい行事にして頂けたらいいなあと願っています。

### 保育所の主な行事

- ・遠足
- ・子どもの日の集い
- ・交通安全教室
- ・園外保育
- ・新一年生との交流
- ・夕涼み会
- ・お月見の集い
- ・全町運動会参加
- ・ふれあい運動会
- ・ふるさとカーニバル参加
- ・クリスマス生活発表会
- ・中学生との交流
- ・6年生との交流
- ・ひなまつりの集い
- ・おわかれ会
- ・誕生会 (毎月)



大人が協力している姿、

子ども達のことを大事に考えて参加して下さる姿を見ることが大きな意義を持ちます。『子どもは親の背を見て育つ』と言われるように、お仕事があり、日時を繰り合わせ大変ですが、今の成長の糧となっていくとでしよう。

では、保育所での子ども達の育ちはですが、幼児の生活主体は遊びです。遊びの中から学んでいます。今、少子、核家族、近くに安全な遊び場の不足の時代です。そんな時、特に集団で、中広の年齢層で遊べることは保育所ならではの自負しています。協力すること、がまんすること、仲間を作ることも等々大事なこともいっぱい経験でき、学んでいっています。0、1才児の赤ちゃん達へはもち

ろん、友達や大人である職員にまで、泣いていたり、困っていたり「痛い」とか言っていたりする場面です。「どうしたん、いけるで」という言葉が自然に出ます。最後にアンケートで『子どもさんは将来どのような育ってほしいですか?』も質問させてもらいました。『思いやりがありやさしい子』という多くの返事。これは昔も今も変わらぬ願いなのだなあと改めて知りました。幼な子へのこの願い通り、この時期の素直でやさしい芽を摘むことなく、いじめや虐待ということが聞かれなくなるように、小中高：社会人へとつなげていくにはどうしたらいいか考えさせられます。今、保育所では、保護者と共に子育てを、を大切に、子ども達には、友達と共にいろいろな経験ができるよう、感性豊かに育つてもらうよう、日々の積み重ねを大切にしていこうと頑張っています。



## 異年齢の中での育ち合い

### 不 動 幼 稚 園

不動幼稚園も少子化傾向で園児数は減少気味です。現在、四歳児五名、五歳児十七名、計二十二名が在籍しています。人間形成の基礎作りの大切な幼児期に様々な体験を通して、豊かな人間性やたくましく生きていく力を育てるために保育をしています。

幼稚園では、少人数の良さを生かすため、組の活動(絵画・製作等)以外は、四・五歳児が共に生活をしていきます。「Aちゃん、遅いな。どうしたんだらう。」と心配したり、欠席していた友達が登園してくると嬉しそうにあいさつを交わしたりして友達のことを思い遣っています。二十二名の子どもたちは、互いに必要な存在となつています。

今、遊びの中で自転車乗りが広がっています。五歳児は、ほぼ全員が乗れるようになり、四歳児は、うらやましそうに見えています。意欲をかきたてられたE子ちゃんは、一番低い自転車に挑戦している、一もうちよっと、後もったげようか」と自分がしてもらったことを友達に合せて関わる姿も見られます。

又、毎日、保護者が愛情こめて作ってくださった弁当をみんなで食べるのも楽しいひとときです。友達と力を合

せて机を運んだり、フキンで拭いたりして場作りをします。「こうやって持つんじよ」と手を添えて箸の持ち方を教えたり、食べ物をごぼすと、さっとティッシュペーパーを持つてきたりします。自分のことだけでなく、友達のことをよく見て行動できるようになつてきました。このように生活のあらゆる場で子ども同士が刺激を受け合い、生活する力や人との関わりかたややさしさなどが育つてきています。



子どもたちと生活を共にする私たち保育者自身の生活を反省しながら、今、子どもたちに何が必要か考えながら保育をしていきたいと思つています。以前より、小学校との交流を大切にしてきましたが、本年度も交流を多くもち、連携を深めています。

五月には、卒園した一年生が幼稚園訪問に来ました。一年生が大切に育てた朝顔の苗を一人一人にプレゼントしてくれました。懐かしい友達を見つけて名前を呼んだり、幼稚園と一緒に楽しんだ砂遊びやかくれんぼなどをして楽しく遊びました。その後、一年生を見かけると声をかけ合ったりして親しみが増したようです。

九月の運動会には、一、二年生と一緒に競技をしました。やさしくリードされ、安心して楽しむことができました。小学生のやさしさとのもしさを感じたことでしょう。

十一月には「なかよしまつり」に招待されました。招待状をもらった時は、「いつ行くんえ」「早よう行きたいな」と楽しみにその日を迎えました。当日は、一年生と手をつなぎ、二年生が工夫し、協力して作った遊びのコーナーで「ざりがに」の「あて」などを一緒に次々と楽しみました。「もうちよつとこつちから投げたら」とアドバイスをもらったり、励まされたりして安心して楽しめました。

## ブロック別同和教育研究大会

### 不動小学校

十一月二十九日(木)、不動小学校で第三十回徳島市・佐那河内村同和教育研究大会が開催されました。市内小学校の先生約百八十人が集まり、

同和教育を自らの問題としてとらえ、「部落差別の現実に学びながら」全教職員の間同和教育観の確立と同和教育解決への意欲と実践力を高め合

た。遊びの工夫やルール、遊び方などに気付いたり、年上の友達の中で行動したり、自分の思いを言葉で伝えたりする力も育ってきています。このような交流を重ねる度に、子ども同士の間隔も深まってきています。これから始まる小学校生活に期待も膨



らんできたことも大きな成果です。

これからは子ども同士、教師同士の連携を図るため交流を深めていきたいと考えています。

子どもたちは、保護者、地域の方々に見守られ心身共にたくましく育っています。これからは、どうかよろしくお願ひ致します。

ました。

不動小学校では、「同和教育を中核とした総合的な学習のあり方を求めて」ということで、昨年より取り組んでいる人権総合学習について、各学年が公開授業しました。地域の方や保護者の方から聞き取りしてきたことを横造紙にまとめ

たり、自分の思いを発表したり、意見を述べ合いました。



人権総合学習のねらい

○人権感覚を育てる  
○「生きる力」を育てる

本校の同和教育における目標と人権総合学習の目標は別々のものではなく、「差別をなくす力」です。そのなかでも、人権総合学習では、人間としての生きていくための基盤としての「自尊感情」を高めることに重点を置いて学習に取り組んできました。

自分や地域に誇りが持てる「自尊感情」を高め、いろいろな地域の方々の思いや保護者の願いを知ることによって、さら



らゆる差別をなくしていきける基盤・きっかけにしていこうとするのが、不動小学校の人権総合学習です。

本年度のテーマ  
各学年のテーマ及び題材を次のように設定し取り組んでいきました。

- 一・二年(生活科)  
地域を知る  
(町を知る)
- ・地域の人と出会う
- ・ともだちいっぱい
- ・不動大好き!
- ・やさしいいっぱい
- 三・四年(総合的な学習)  
地域に学ぶ  
(人々の生き方に気づき学ぶ)
- ・町にほこりを
- ・「不動町たんけん」
- ・「私たちの学習会」
- 五・六年(総合的な学習)  
自分を見つめ  
地域とともに生きる  
(自分や地域に誇りを持つ)
- ・人権について考えよう
- ・ドリームズ・カム・トゥルー

次に詳しくその取り組みを紹介させていただきます。

不動大好き!  
やさしいいっぱい  
(第二学年)  
二年生では、一年生と協力して「なかよしまつり」を開き、地域の幼稚園や保育所の子どもたちを招き、楽しく過ごすことで人とふれあうことの楽しさや喜びを体感させようと考える取り組みました。友だちを喜ばせたり、友だちのために何ができるかを考えることで、友だちを大切に

思う心を育てていきました。この授業をおして子どもたちは自分をしっかりと見つめ、地域に親しみをもち、地域を愛する

「自尊感情」につながる



町にほこりを  
「不動町たんけん」  
(第三学年)

三年生では、社会科の「校区たんけん」の単元を導入として、「不動町の自まんできるところを見つめよう」というテーマを持って取り組みました。

地域のよいところ(総合センター・ほうれん草づくり農家・お不動さん・鮎喰川など)を見学・調査することによって再発見し、それをうまく人につたえられるよう表現の仕方を工夫し、発表できるようにすることで、自分や不動町に誇りが持てるようにというねらいで授業が展開されました。



総合学習で取り組んだことを生かし、自分の夢を実現するために努力している人たちと接し、差別に負けずに歩んできた「生き方」を学び、自分たちのこれからの生き方を見つめ直すことができるような取り組みを展開していきま

た。

子どもたちは、差別のない社会について自分なりの意見を発表し、差別に負けずに生きてきた人たちから、その生き方を学ぶことができたように思えます。

また、ここで地域の方々や保護者の方々の大きな協力があつたことを忘れることはできません。ゲストティーチャーや急なインタビューに子どもたちのために快くご指導ご助言をいただいたことに心より感謝申し上げます。

これからも、不動小学校の人権総合学習は広がりと深まりを増していきます。地域の方々や保護者の協力を得て、子どもたちの「生きる力」につなげていきたいと思ひます。今後とも、ご協力よろしくお願ひします。



六年生では、一学期の人権

(文責 上田)

# 地域の教育力を活かした 学校づくりにご協力を

## 不動中学校

いよいよ来年度より「総合的な学習の時間」が完全実施されることになりま  
す。そのねらいは「自分自  
身で課題を見つけ、自ら学  
び考え、課題を解決する資  
質や能力を育てること。」  
と、「学び方や考え方を身  
につけ問題解決に主体的、  
創造的に取り組む態度を育  
て、自分の生き方を考える  
ことができるようにするこ  
と。」の2点です。この点を  
ふまえた二点にねらいを  
絞り実践をすすめてきまし  
た。

- ・地域の教育素材や人材の活用。
- ・生徒に自尊感情を育てるとともに、地域への誇りを持たせる。

このねらいにしたがって、各学年で次のような取り組みを行ってきました。

三年生は一昨年には「不動町を知るフィールドワーク」を行い、総合センターの働き、不動町の歴史、差別との闘い等について、地域の方々よりお話をうかがい、地域の特性を知るとともに、地域の方の中学生にかけられる思いや期待を直に感

じることができました。

昨年は「不動町の土地利  
用を考える」というテーマ  
で、現在の不動町の問題点  
を解消し、誇りを持てるよ  
うな将来の町づくりを考え  
ました。

そして今年には、「ゴミの  
不法投棄問題」をテーマと  
し、ゴミ捨て防止看板の製  
作と設置に取り組みまし  
た。まず、現地調査から始  
め、看板のデザイン、材料  
の買い出し、製作を行い、  
これから設置していく予定  
です。

二年生は、昨年度「未来  
の不動町の立体マップづく  
り」で、夢のある不動町の  
姿を作り上げました。そし



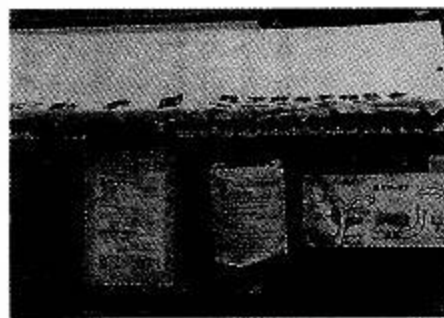
て、今年には「それぞれが自  
分の花を咲かせよう」が  
テーマでした。「誇りある

学校づくり」に視点を置き、  
潤いのある環境づくり、花  
壇の製作を行いました。草  
抜きから始め、開墾、丸太  
の枠組みと作業を進め、現  
在美しい花を咲かせていま  
す。この活動を通して生徒  
たちは住みよい環境づくり  
のために行動していくこと  
の大切さに気づき出し始め  
ました。さらに、やればで  
きるという気持ちが高まっ  
てきています。



一年生は、不動町のこと  
をより深く知るためフィー  
ルドワークに取りかかる準  
備中です。「不動町調査隊」  
を結成し、自分達の疑問点  
を調べたり、不動町の特性  
をつかんでいく予定です。  
今後、地域の方々のご協力  
をお願いいたします。  
このような取り組みの成  
果は「ふるさとカーニバル」  
で地域の方に披露していま  
す。また、情報発信委員会  
による「生徒会新聞」で、  
毎月一回公民館、総合セン

ター、児童館を通じて地域  
の方にお知らせしていま  
す。これ以外にも、不動町  
内を舞台にした「ふるさと  
オリエンテーリング」、全  
校あげての「文化祭」など、  
中学生の活動をこらんいた  
だく場は数多くあります。  
ぜひ、中学生の活動の様子  
に興味を持っていただき、  
激励いただければと思いま  
す。ご協力ご支援をお願い  
いたします。



不動中学生の活動記録  
スポーツ活動関係  
◎徳島陸上競技カーニバル  
円盤投(二位) 仁木 悠介  
砲丸投(二位) 仁木 悠介  
◎市長杯争奪バドミントン大会  
一般女子(三位) 大寺彩加  
◎県陸上競技大会  
砲丸投(二位) 仁木 悠介  
四百M(三位) 高橋 裕喜  
◎市陸上選手権大会  
四百M(二位) 高橋 裕喜  
砲丸投(二位) 仁木 悠介  
走高跳(三位) 井原 理恵

- ◎徳島市中学校総合体育大会  
柔道二年(優勝) 横田昇太郎  
◎通信陸上徳島県大会  
共通砲丸投  
(全国四位) 仁木 悠介  
四百M(二位) 高橋 裕喜  
砲丸投(二位) 仁木 悠介  
走高跳(八位) 井原 理恵  
◎市陸上大会  
Aブロック 一位  
◎個人  
四百M(二位) 高橋 裕喜  
砲丸投(二位) 仁木 悠介  
円盤投(二位) 仁木 悠介  
棒高跳(三位) 正木 和哉  
Aブロック  
四百MR一・二年(三位)  
井坂哲也 木内 誠  
森川真彦 田中 拓  
八百MR(二位)  
前田真利 正木和哉  
仁木悠介 高橋裕喜  
四百MR(三位)  
井原理恵 日下 舞  
吉本美紀 大寺彩加  
◎西署管内防犯球技大会  
バスケットボール 三位  
◎県中郡市対抗陸上大会  
砲丸投(二位) 仁木 悠介  
四百M(二位) 高橋 裕喜  
◎四国中学校総合体育大会  
砲丸投(二位) 仁木 悠介  
◎ジュニアオリンピック大会  
砲丸投(全国五位)  
仁木 悠介  
◎文化活動関係  
◎同和問題啓発ポスター  
入選 久米 雄二  
入選 大寺 彩加  
◎徳島市中学校総合体育大会  
入選 久次米宏美  
入選 豊田 莉沙  
入選 吉本 美紀  
◎人権作文コンクール  
優秀賞 井坂 有那  
優秀賞 近藤 宏香  
◎市書写コンクール  
特選 佐野 桃子  
特選 中谷 桜子  
特選 吉田 麻美  
特選 渡邊 彩加  
特選 久次米美穂  
特選 近藤 宏香  
特選 仁木 麻衣  
◎同和問題意見発表  
優秀賞 井坂 有那  
◎徳島県学校音楽祭  
器楽合奏の部 入賞  
◎MBSこども音楽コンクール  
合奏の部Iの部優秀賞  
重奏の部 優秀賞  
◎市音楽創作コンクール  
入選 仁木 麻衣  
◎非行防止弁論大会  
優秀賞 藤本 夏未  
◎市科学作品展  
入賞 井原 彩那  
入賞 岸 愛子  
入賞 富永 陽子  
入賞 米田麻衣子  
◎徳島市置市記念作品展(画)の部  
教育長賞 久次米宏美  
◎市中英語リスニングコンテスト  
佳良賞 大寺 彩加  
佳良賞 豊田 莉沙  
佳良賞 中筋 悠里  
◎徳島県中学校生徒作品展  
優秀賞 山内 淳也  
優秀賞 井原 彩那

# 成人おめでとう

平成十三年度

## 不動町新成人名簿

### ◎女子

木内ひろ子	住野 美紀
折野 梢	久米 麻耶
久米 友美	林 真奈美
鎌田 由香	仁木 啓代
寺山のぶ	中口 梨真
岸本 望	三木 孝恵
田村 美鈴	山田 優希
佐山 幸子	上原 恵
西上 奈甫	西村 彩

### ◎男子

堀江 直正	佐々木 聡
近藤 卓也	高井 浩貴
中川 憲一	前田 晃
岩元 慎吾	阿部 雅彦
吉本慎太郎	丸山 隆彦
近藤 博	井原 和保
松本 祐一	高木 弘仁
丸山 恭央	高里 雄一
福田 友彦	綾 利允
岡部 直樹	日野 和幸
威 金波	段 愛友

計 四十名



## 体協だより

二十年間つづいた徳島市民秋の大運動会も昨年をもって終了しました。二十年間皆様方には色々とお世話になり、有り難うございました。

二〇〇一年度からは、市民総参加秋の大運動会から、市民スポーツフェスティバルとなりました。フェスティバルの内容は、生涯スポーツの部、レクリエーションの部など多くの部があります。

その中でも生涯の部では、ゲートボール、グラ

ドゴルフ、又レクリエーションの部では、地区対抗玉入れや、市民縄跳び大会がございました。

今年是不動体協も、グラウンドゴルフに参加しました。来年度からは皆様の御協力をいただき全種目に参加をしたいと思っておりますので、御支援御協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の御健康とご多幸をお祈りいたします。

不動体育協会会長  
藤本 護  
会員一同

## 堤防除草作業

鮎喰川堤防が美しくなりました。師走恒例の鮎喰川左岸堤防の除草作業が十二月一日(土)から二日(日)にかけて実施されました。既に十一月下旬には、不動小・中学校の児童生徒の皆さんによつて空き缶やビン類等のゴミが除去されていきました。そのため草刈機を使つての除草作業が、晴天も相まつて順調に進んでいきました。

一日(土)は午後一時開始、西町二丁目八幡宮南から東へ東へと順次作業を進めていきました。

不動学園、同推協、体協



## 第26回徳島市公民館大会に参加して

不動寿老会 樋口 宗治

去る十一月八日(木)徳島市公民館連絡協議会主催の学習発表会が、郷土文化会館一階大ホールで盛大に開催されました。プログラムは市内三十一公民館支部より趣向を懲らした演技が発表されました。コーラス、カラオケ、詩吟、大正琴、舞踊、フォークダンス、銭太鼓、寸劇等日頃の学習成果を充分に発揮され舞台と観客席とが、一体となつて、和気藹々の楽しい一日を過ごすことができました。この中で我が不動支部からは、日本舞踊「黒田節」で出演しました。人員構成は男性一人、女性四人計五人で、熟年揃いです。黒田節は福岡県の民謡で黒田藩の剛勇な武士が酒の呑みくらべで、名槍日本号を勝ちとつたという勇壮な逸話がある。

この舞踊を女性ながらの男踊りとして、同じ不動公民館教室の、鉄谷高子様に細心なご指導を頂き、全員力を合わせ、短い期間ではありますが、皆なで心を一つにして、この踊を発表



民協、婦人会、老人会等々町内の各種団体から大勢の方々が出てくれました。背丈ほど伸び茂った雑草を相手に、しかも急な斜面なので一人のケガ人もでなかったのが幸いです。

二日(日)は朝から終日作業でした。東町二丁目地先から弁天橋の東まで美化を進めていきました。

二日間とも晴天に恵まれ、午後四時、無事故のうちに除草作業を完了することができました。今回も堀分団長さん以下不動消防分団の方々に、刈った草の運搬等最後までお世話になりました。ありがとうございます。



# 橋(はし)の話 その三

## 四国三郎橋

旧讃岐街道(県道徳島・引田線)の朝は通勤ラッシュで、とくに名田橋付近ではしばしば長蛇の列となった。これを緩和するため県は徳島・北灘線に弁天橋に続いて四国三郎橋が平成十年三月に完成させ、川

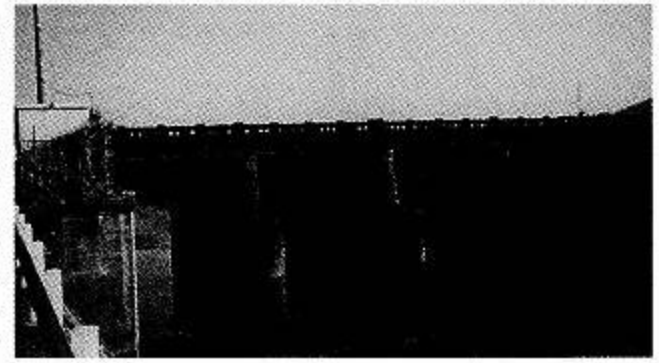
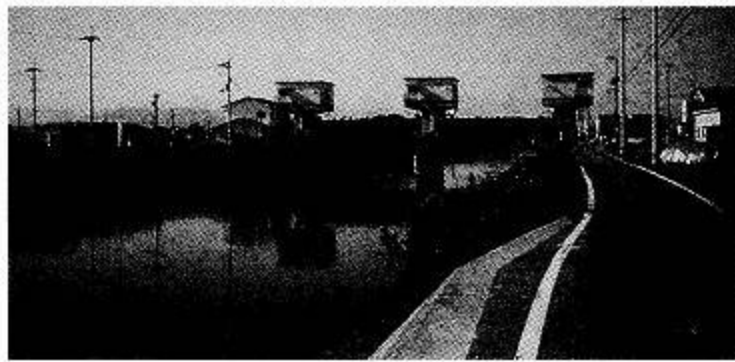


北方面との交流を企てるにも県道一号線の交通渋滞は緩和した。  
四国三郎橋は吉野川に架る二十四番目の道路橋で、長さ九一〇、五米・二車線一四米の橋巾を持つ鋼床版箱桁、鋼斜張橋の工法は、

## 架橋地点の左岸(応神側)

がポートレースのコースになつているため長支間となり、景観等も考えて斜長橋として私たちは優美な姿を見ることが出来る。

不動地区は昔から吉野川・鮎喰川・飯尾川の洪水時の遊水地帯として、毎年水害に悩まされてきた。ことに飯尾川は明治初期迄、北井上境の角の瀬地区から逆瀬川と共に吉野川に流入していたが、堀割により赤池川と合流させ農業用堰を造り、下流の耕地を畠作か



ら水田に転換させた。その堰は平成五年五月に改修された飯尾川堰である。二ヶ所の可動堰と共に長さ四十九米、巾三、五米の農道橋がついている。

かつての赤池川が吉野川への流入口には飯尾川樋門が設置され、吉野川増水時は閉鎖する樋門は目下改良工事中である。  
昭和八年の堤防改修工事で飯尾川の水を鮎喰川に放流する為堀割で結び、飯尾川第二樋門が造られて、その上には長さ三五米の農道が通っている。



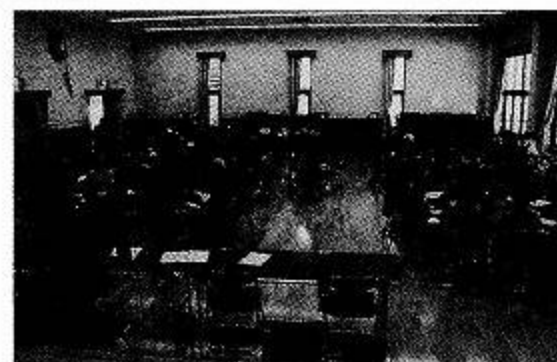
# 徳島市社会同和教育研究集会

十一月十日(土)八万公民館であり、不動からの三十人をはじめ約二百人が集まり、同和教育や人権問題に理解を深めた。

「私の同和教育」私にできること」を研修課題として、指定地区の取り組み発表や問題提起をきいたあと、三分科会別に学習した。子どもや若年層を中心に

人権尊重の意識がずいぶん向上してきているので、中高年者も間違つた考えは学習によって正しいこうと確認し合った。

若い人と高齢者が、また市内の各地区の人たちが、自由に意見を出し合つて交流できた研究集会だった。



# 交通安全を祈って

九月十日、交通安全看板の入魂式が行われた。

J A 不動支所前に建っている交通安全呼びかけの看板が、建立以来二十年を経過して不鮮明になったので、このたび新しく描きかえられた。

元不動小学校長露口敏幸画伯の筆によるもので、県道を通するドライバーや歩行者に「交通安全」を呼びかけている。



「ルールを守る人 命を守る」

# 公民館より

平成十四年一月に予定していましたが新年互礼会が都合により中止されました。従つて十三年度中に各種の受賞をされた方々の祝賀は、十四年四月の不動町歌送迎会の席上で披露いたしますことになりました。右お知らせいたします。